

# ミナミマグロ幼魚の行動追跡

水産情報工学部

## 研究の背景・目的

1. オーストラリア南西海岸域に來遊するミナミマグロ幼魚を対象に、ソナーを使った資源調査を実施している。
2. 調査設計や加入量解析の過程で必要となる、調査海域へのミナミマグロ幼魚の出入りのパターンや、海域内での平均滞留時間などの情報を得ることを目的とする。

## 研究成果

1. ミナミマグロ1才魚、2才魚に、個体識別可能なピンガーを装着して放流し、ライン状に設置した水中マイクロホン(約70地点)によって受信し、來遊・滞在状態を記録した。
2. 沿岸に存在する、いくつかの小さな天然魚礁(ホットスポットと呼ばれる)は幼魚の滞留場として重要であることが認められた。調査海域への進入率や滞留日数を解析中。

## 波及効果

1. 得られた行動パターンと環境要因を統合的に解析することにより、調査海域への到来時期の予測等が可能になる。
2. 本手法は、他の回遊性魚種についても有効な手法であり、行動と環境間の関係を解析して、漁場形成予測技術等に発展させることができる。

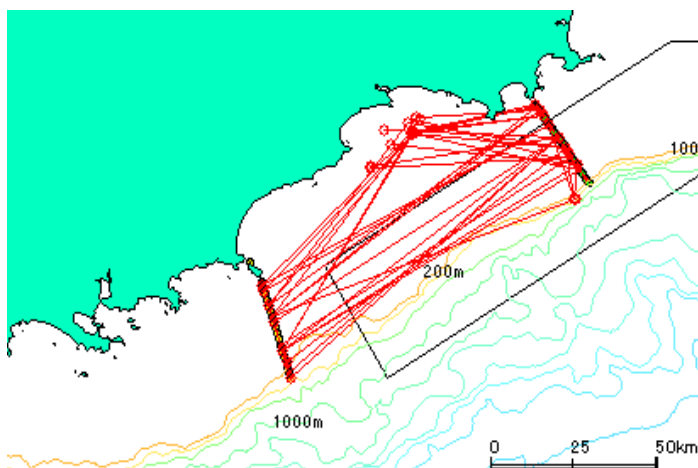


ミナミマグロ1才魚(体長 50cm)

+



腹腔内に挿入するピンガ



2003年12月から2004年3月にかけて得られた、回遊パターン(赤線)

(資源情報工学研究室, 上席研究官)